

# 医師中村哲さんをもっと知って！

2019年12月4日、アフガンで医療活動や水路の建設など人道支援に取り組んできた医師中村哲さんが同行の5人のアフガン人と共に銃弾に倒れた。記憶に新しいところだ。

1978年 趣味の登山と昆虫（特に蝶）採集の楽しみを兼ねアフガン・パキスタンの登頂を目指す山岳隊の編成に医療班として参加したのが始まりだが訪れる村々に医療が届いていなくて十分な診療が出来ず見捨てざるをえなかった。これが彼の人生を大きく変える事に！

「水が大事！」から1600本もの井戸掘りするも地下水の枯渇を恐れたアフガン政府から禁止命令。2003年「緑の大地計画」雪解け水が豊富に流れる大河クナール川からの水路の建設に着手、2017年干上がった不毛の土地は緑を支える大地に姿を変え65万人の暮らしを支えるまでになった。針金で編んだ籠に石を詰めて形作る「蛇籠法」を



用いることで壊れたとしても現地修復出来る方法に徹底してこだわった。

2001年9月11日、USA同時多発テロを受け同年10/13加藤紘一委員長のもと衆院テロ対策特別委員会（略称）が「それぞれのお立場から忌憚のないご意見を！」で始まり、中村さんは参考人として出席、次のように述べた。「自衛隊派遣、後方支援の是非だが現地の人々の日本に対する信頼を崩しかねない。有害無益でございます。」

これに対し、自民党亀井義之議員（2006年没）から「もう結構です、発言取り消しを！」自分達で「忌憚のないご意見を！」と呼んでおいて気に食わないとこの態度である。

日本学術会議の会員任命拒否問題は、学者達が政府の政策に反対していたことが真の理由であるのは間違いなさそうだ。

「作業地上空を米軍ヘリが飛び、我々は生きる為に地面掘る。彼らはいかめしい重装備、我々は埃だらけのシャツ一枚。水辺で遊ぶ子供達の笑顔に、はち切れる様な生命の躍動を読み取れるのは我々の特権だ。そしてこれらが平和の基礎である。」 ゴチック部分：中村語録引用。

（朝日ヶ丘町 上野）

## 原水爆禁止世界大会ヒロシマデー集会

8月6日、原水爆禁止2021年世界大会ヒロシマデー集会在オンラインで開催されました。核兵器禁止条約発効後、初めての世界大会です。主催者報告した富田世界大会起草委員長は、日本政府が禁止条約を支持するなら、世界の流れを大きく後押しすることになると指摘し、禁止条約を拒み続ける政権を総選挙でかえようと呼びかけました。禁止条約第1回締約国会議で議長を務めるオーストリアのクメント大使は、唯一の戦争被爆国の政府が参加することに歴史的役割があると指摘し、日本政府の参加を求めました。

ICANやフランス、韓国などの代表、国内各地の草の根運動が核兵器廃絶の取り組みを発言。松井広島市長は「一刻も早く禁止条約の締約国になる」ことを政府に求めました。核保有・依存国の政治転換を呼びかける「広島からの呼びかけ」を発表しました。

先に開催された平和記念式典で、菅総理は禁止条約について一言もなく、『核兵器のない世界』という言葉を読み飛ばす等、被爆者に寄り添おうとしない姿勢に、「平和式典でのあいさつは二度とさせない！今回を最後にさせる」と強く思いました。（芦屋原水協 柳）

## 芦屋「九条の会」上映会

### ちむぐりさ

～菜の花の沖縄日記～

9月26日（日）

14:00～16:00（開場 13:30）

上映時間 106分

芦屋市民センター 401室

参加費：500円

（障がい者・大学生以下無料）

ちむぐりさは、「あなたが悲しいと私も悲しい」という意味の沖縄の言葉。

「沖縄の今ということに目をむけてほしいと思う」平良いずみ監督。

